



—チャンスがあるとき、私は絶対に
タイミングを逃していない自信があります。

B.Tにたどりつき、そこでは論争があるということを知りました。だから宗教学やジェンダー学の授業はとっています。

Q・現代社会システムに所属していらっしゃるということですが、現代社会システムには他にどんな学問があるのですか？

社会探究領域は4つに分かれていて、必修は1個ありません。ほとんど社会探究領域の中で興味のある授業を取っていきます。そして1番多かった授業科目群がその人の科目群になります。

だから、いまは現代社会システムを選んでいますが、このままいくと所属する科目群が変わるかもしれません。今、私は社会フィールド研究の授業が多いので、卒業するときは社会フィールド研究で卒業することになるかもしれません。社会探究領域はとても自由です。

Q・留学経験についてお尋ねします。なぜアメリカに留学することになったのですか？

おぼが仕事でアメリカのサンフランシスコにいたため、高校2年生までに4回ほど遊びに行ったことがあります。その際、英語はほと

んど分からなかったけれど、分からないなりにジェスチャーを交えてコミュニケーションを取るのが楽しくて、もし英語が話せたらもっと楽しくなるだろうなと思って、留学をすることにしました。

Q・留学で最も思い出に残っていることはなんですか？

ほんとに色々な経験をさせてもらって決めきれないんですが、最も衝撃的だったのは価値観の違いに直面したことです。

私のホストファミリーは、犬と猫を飼っていました。だけど私の留学中に、犬は車にひかれて死んでしまい、猫は病気にかかって撃ち殺されてしまいました。動物が大好きな私は悲しくて号泣してしまったのですが、ホストファミリーは全く悲しんでいませんでした。その理由には、彼らが住んでいる場所と信仰している宗教が深く関係していました。辺り一面トウモロコシ畑という超田舎に住み、動物は人間のために神が創造した物だと考えているクリスチャンのホストファミリーにとって、動物はただの害虫駆除か番犬で家族の一員という位置づけではありませんでした。そのため、動物は物と

Q・社会探究領域では、どのようなことを学んでいらっしゃるのですか？

高校3年の時に留学していたのですが、その時のホストファミリーがクリスチャンだったということもあり、宗教の違いを学んでいます。更に、宗教をたどって行ってジェンダーやL.G

同じ扱いで、なくなったら新しいのをかえばいい、なぜ悲しむ必要があるのかという考え方でした。

こういった体験は、その当時はすごく衝撃的で受け入れられない部分もありましたが、相手はその考え方に至った理由が知りたくて、たくさん質問したり調べたりしました。その積み重ねによって、個人の価値観の形成に、いかに宗教や生まれ育った場所が影響しているのかわかることを考えるきっかけにもなりました。私が出した一つ一つの質問に、しっかりと向き合ってくれてくれたホストファミリーには感謝がつきません。

Q. 言葉の壁はありましたか？

大きかったです！留学先の学校は高校生がたった20人程度、さらにそのうちの8割がヨーロッパからの留学生でした。私が話しかけても無視されたり Yes, No で話を強制終了されたりというのが留学の前半は特に多くて、とてもしんどかったし悔しかったです。

Q. それは10か月間の間で克服されたのですか？

留学先の学校では、部活動や行事もなく、友達も作れないと思ったので、校長先生やホストファミリーに直談判して、違うコミュニティをいくつか紹介してもらいました。

以前から動物の保護活動に興味を持っていたので、野良猫を保護して里親を探すボランティア活動に毎週参加したり、大学の元教授のおじいちゃんと図書館で定期的にお話ししたりしました。そのボランティア活動をしているときに、偶然出会ったおばあちゃんとても仲良くなつて、毎回家に遊びに行っておばあちゃんの馬に人参をあげていました。図書館で会っていたおじいちゃんは、別の学校の高校生と私を繋いでくれました。そのおかげで、別の学校に友達ができたり、その友達のプロムにも行かせてもらいました。その子たちとは今でも大親友で、時々 Skype もしています。学校では悔しい思いもたくさんしたけど、色んな人のおかげで、学校だけでは知り得なかった年齢層の人たちに出会えたり、参加できなかった行事に参加できたりして本当に良い体験になりました。

Q. なぜそんな行動しようと思ったのですか？悔しかったからですか？

留学はかなりの覚悟で行ったんです。日本語を話したくなくて、一度日本人の友達との連絡先も削除しました(笑)。ごめんなさい。英語を何が何でも10か月で話せるようになりたいって、1日も無駄にしたくないって、燃えていました。

Q. 今は英語ペラペラなんですよ？

いや、日常会話程度です(笑)。

Q. 現在、「地域盛り上げ隊たのした」で活動されているようですが、どんな活動をされているんですか？

「地域盛り上げ隊たのした」は広大生に楽しく有意義な4年間を過ごしてもらいたいという思いから数年ほど前に下見の地元住民と企業が立ち上げた団体です。昨年からは、広大生もがつりメンバーに加わっています。すでに卒業されたんですけど、とても尊敬していた先輩がいたので、私も「たのした」に入ることにしました。「たのした」はイベントを中心に活動をしています。例えば下見の食べ歩きイベント。これは、地域住民の人が、1年生は最初どこに食べにいっただけかわからないから、一度下見地域のお店を回る機会を設けてあげたいと

いうことで始まった企画です。また、7月にはゆめタウンで夏祭りを行いました。地域の人と学生が少しでも交流できたらいいなという思いで開催しています。広大からは毎年、ボランティア団体が出店したり、ダンスや歌のサークルがステージ発表をしたりして、日ごろ広大生が何をやっているかを知ってもらおう機会となっています。さらに、毎週水曜日にはFM東広島でラジオをしています。新しい企画としては「広大1〇〇」。学生が特技や強みをアピールしたりサークルの告知をしたりすることを通して、地域の人たちにもっと広大生を知ってもらい、また学生が地域への関心を深める機会になればいいなと思って始めました。

Q. 将来の夢はなんですか。

何だろう？（笑）。まだわからないけど、何かと何かを繋ぐシステム作りなどをしていきたいです。例えば「たのした」では地域と学生がつながれる機会を増やせたらいいなと思いつながら活動をしています。私自身「たのした」で地域住民の方々とお話ししたり活動を一緒にさせてもらったりするのはとても楽しくて勉強になっています。私はあと2年で卒業して

「たのした」を離れてしまいましたが、地域の先何十年も下見にずっと住み続けます。これからも、広大が下見にある限り学生と地域住民の繋がりは切れてほしくないの、卒業するまでには、「たのした」と学生がずっと繋がっていけるシステムを確立して次の代に繋げたいと考えています。

Q. 1年次にやっておいた方がよかったことはありますか？

自分は割と後悔しないタイプだと思うから、駄目なところもたくさんあったけど、そこがなかったら今の自分もないと思うんです。1年生の時は1年生のときで自分的にそれなりにやってきたから、特別やっておいたほうがよかったなと思うことはないかな。

Q. 総科の後輩に一言どうぞ！

いろんな人とかかわるのが好きで、人とかかわってたくさん学ぶ人もいるし、人とかかわらずに自分の中で消化して学ぶ人もいる。だから一概にこれが一番いいと自身で思うことがいとは言えないと最近思うようになりました。あと、タイミングがすごい大事だと思う。チャ

ンスがあるとき、私は絶対にタイミングを逃していない自信があります。だから、皆もやりたいことが見つかって、やりたいことが向こうからやってきているなと思ったときは絶対行つたほうがいい、チャンスは絶対ものにすべき。常にアンテナを張っておくことを忘れないでください。